



葛飾北斎「諸国瀧廻り 相州大山ろうべんの瀧」

2017年度 新収蔵作品展

Present for you

わたしからあなたへ／みんなから未来へ

2018年1月5日(金)～2月18日(日)

町田市立国際版画美術館 企画展示室2

ごあいさつ

1987年4月の開館以来、町田市立国際版画美術館は版画を中心とするユニークな美術館として、国内外のすぐれた版画作品と資料を収集・保存し、版画をテーマとする展覧会を開催してきました。また、初心者から経験者まで幅広い層を対象とした実技講座や、各種の版画制作用具を備えた工房とアトリエを制作の場として一般に開放するなど普及活動も展開し、「見る楽しみ」と「作る楽しみ」を総合的に紹介してまいりました。こうした活動を評価していただき、近年は寄贈作品の点数も増加しています。

本展では2017年度上半期に新たに当館に収蔵された作品266点の作品のなかから、主な作品約70点をご紹介します。当館は今後も、古今東西の版画の歴史が多面的・総合的に理解できる質の高いコレクションの形成を目指して、継続して収集活動につとめていきたいと考えています。

「2017年度 新収蔵作品展—Present for You」とは、当館に収蔵される作品が、貴重な文化遺産として大切に保管され、未来へと伝えるべきものであり、同時に市民ひとりひとりから未来へのプレゼントでもあるという気持ちをこめたタイトルです。本展を通じて、当館の活動がさまざまな人々によって支えられ、市民ひとりひとりも美術館のサポーターであるということをご理解いただければ幸いです。

最後になりましたが、貴重な作品や資料をご寄贈くださいました皆様、収集活動にご協力くださいました皆様に厚く御礼申し上げます。

2018年1月

町田市立国際版画美術館

館長 村田 哲朗

◇凡例

作家・作品データは展示順に掲載しています。

各データは次の順に記載しています。

作者名、生没年、解説、題名、制作年、技法、寸法(mm)

作家名(ローマ字)については、姓を大文字で表記しています

購入

1, 2

葛飾北斎作品

株式会社ギオン様からの寄付金により購入

葛飾北斎(1760～1849)は、江戸時代後期を代表する浮世絵師。安永7年(1778)に勝川春章に入門し、役者絵や挿絵の制作に携わりました。その後、勝川派を離れ、版本、摺物、錦絵、肉筆画とジャンルを問わず幅広く手掛け、独自の画風を確立しました。

作品1は、浮世絵史において「風景画」というジャンルを確立した記念碑的シリーズ『富嶽三十六景』のうちの一図。遠江は、現在の静岡県西部にあたる地域で、その山中で大鋸を操る木挽き職人を描いています。木材と背後に見える富士の三角形が呼応し、北斎らしいユーモアあふれる構図が見どころです。

作品2は、各地の滝を題材としたシリーズ『諸国瀧廻り』の一図。本図は神奈川県伊勢原市の大山にあるろうべん(良弁)の滝と、水垢離をとり身を清める参詣者の姿が描かれています。

1

葛飾北斎 (1760-1849)
KATSUSHIKA Hokusai
富嶽三十六景 遠江山中
天保1-4年(1830-33)頃
大判錦絵

2

葛飾北斎 (1760-1849)
KATSUSHIKA Hokusai
諸国瀧廻り 相州大山ろうべんの瀧
天保4年(1833)頃
大判錦絵

寄贈

3

勝川春章 (1743-1792)
KATSUKAWA Shunsho

錦百人一首あずま織
安永4年(1775)初版
各268×188mm
彩色摺絵本

泉康子様より寄贈
(泉光一氏旧蔵)

勝川春章(1743～92)は、江戸時代中期に活躍した浮世絵師。役者絵では役者の似顔表現を取り入れた画風で一世を風靡し、肉筆美人画では典雅な美人様式を確立して大名ら上流階級のパトロンを得ました。勝川派の祖として多数の門人を抱え、若き日の北斎もここで学びました。

出品作品は、百人一首を題材とした絵本。和歌の下にそれぞれの歌人の肖像が描かれ、柔和で繊細な彫と摺が施されています。春章自身による序文には、これは絵空事を含んだ浮世絵であり、歌仙の衣冠には故実に正しくない部分があるなどと記されていますが、一人一人の衣裳やポーズ、表情がさまざまに描き分けられているところには、春章のこだわりが見て取れます。出品作に関しては、当初は版本の形状でしたが、いつの段階か一頁ずつ切り離されました。

4～34

小野忠重旧蔵浮世絵コレクション(幕末～明治)

小野近士様より寄贈

当館では2012年度より継続して、版画家であり版画史研究家でもあった小野忠重の旧蔵コレクションの寄贈を受けています。本年度は、幕末から明治にかけての浮世絵版画124点を受贈し、本展では、その一部をご紹介します。

小野コレクションには、幕末から明治の激動の時代を映す浮世絵が多数含まれています。安政の大地震をテーマにした鯰絵や、文明開化によって変わりゆく街並みを描いた開化絵、報道的な役割をもつ新聞錦絵などです。ほかにも、役者絵や美人画、相撲絵といった従来描かれてきたテーマや、過ぎ去った江戸を

懐古する趣向の作品もあり、ジャンルは多岐にわたっています。浮世絵師としては、落合芳幾、二代歌川国輝、月岡芳年、豊原国周、楊洲周延ら、幕末・明治に活躍した個性的な絵師が揃っています。

4

歌川貞秀 (1807－1878、1879 頃)

UTAGAWA Sadahide

大日本国郡名所より

明治元年(1868)

大判錦絵

4-1 肥後洲益城郡 本朝無類 七壇之瀧

4-2 肥後州阿蘇郡 菅大瀧

4-3 越後左志郡 高田

5

歌川芳虎 (1828 頃－1887 頃)

UTAGAWA Yoshitora

東京日本橋繁栄之図

明治3年(1870)

大判錦絵三枚続

6

歌川芳虎 画 (1828 頃－1887 頃)

UTAGAWA Yoshitora

肉亭夏良 作 (生没年不詳)

NIKUTEI Karyo

当世流行咄し

明治6年(1873)

大判錦絵

7

歌川国麿 (生没年不詳)

UTAGAWA Kunimaro

写生猛虎之図

万延元年(1860)

大判錦絵

8

落合芳幾 (1833－1904)

OCHIAI Yoshiiku

真写月華之姿絵 三代目関三十郎

慶応3年(1867)

大判錦絵

9

落合芳幾 (1833－1904)

OCHIAI Yoshiiku

春色三十六会席より

明治2年(1869)

大判錦絵

9-1 品川町万林

9-2 金春三久

10

二代歌川国輝 (1830－1874)

UTAGAWA Kuniteru II

国見山 玉の戸

制作年不詳

大判錦絵三枚続

11

二代歌川国輝 (1830－1874)

UTAGAWA Kuniteru II

東都築地保互留館 海岸庭前之図

明治元年(1868)

大判錦絵三枚続

12

二代歌川国輝 (1830－1874)

UTAGAWA Kuniteru II

東京府下自漫競 駿河街三井

明治7年(1874)

大判錦絵

13

二代歌川国輝 (1830－1874)

UTAGAWA Kuniteru II

東京各大区之内 両こくやなきばし

明治6年(1873)

大判錦絵

14

三代歌川広重 (1842－1894)

UTAGAWA Hiroshige III

東京自慢名勝八景 永代の帰帆

明治4年(1871)

大判錦絵

15

三代歌川広重 (1842-1894)
UTAGAWA Hiroshige III
東京滑稽名所 銀座通り煉瓦造
明治14年(1881)
大判錦絵

16

英齋 (生没年不詳)
Eisai
福神蚕養乃図
明治2年(1869)
大判錦絵三枚続

17

月岡芳年 (1839-1892)
TSUKIOKA Yoshitoshi
東錦浮世稿談 鬼神於松
慶応4年(1868)
大判錦絵

18

月岡芳年 (1839-1892)
TSUKIOKA Yoshitoshi
郵便報知新聞 第四百四十九号
明治8年(1875)
大判錦絵

19

月岡芳年 (1839-1892)
TSUKIOKA Yoshitoshi
徳川治蹟 年間紀事 十五代徳川慶喜公
明治8年(1875)頃
大判錦絵三枚続

20

月岡芳年 (1839-1892)
TSUKIOKA Yoshitoshi
新撰東錦絵 白木屋於駒の話
明治19年(1886)
大判錦絵二枚続

21

月岡芳年 (1839-1892)
TSUKIOKA Yoshitoshi
近世人物誌 やまと新聞附録より
大判錦絵
21-1 第一 天璋院殿 明治19年(1886)
21-2 第七 力士梅ヶ谷藤太郎 明治20年(1887)
21-3 第九 明治20年(1887)
21-4 第十六 武田耕雲斎別室時子
明治21年(1888)
21-5 第十七 西郷隆盛 明治21年(1888)
21-6 第二十 徳川慶喜公御簾中
明治21年(1888)

22

豊原国周 (1835-1900)
TOYOHARA Kunichika
開化廿四好 時計 岩藤 尾上菊五郎
明治10年(1877)
大判錦絵

23

豊原国周 (1835-1900)
TOYOHARA Kunichika
開花人情鏡 権妻
明治11年(1878)
大判錦絵

24

豊原国周 (1835-1900)
TOYOHARA Kunichika
近世名婦美人鏡 典侍柳原愛子
明治20年(1887)
大判錦絵

25

豊原国周 (1835-1900)
TOYOHARA Kunichika
歌舞妓十八番之内 しばらく 九代目市川団十郎
制作年不詳
大判錦絵二枚続

26

楊洲周延 (1838-1912)
YOSHU Chikanobu
東世開化イロハタトヒノ人
明治10年(1877)
大判錦絵二枚続

27

楊洲周延 (1838-1912)
YOSHU Chikanobu
初夏茶製之図
明治12年(1879)頃
大判錦絵三枚続

28

小林永濯 (1843-1890)
KOBAYASHI Eitaku
岸田吟香製 楽善堂三薬引札
制作年不詳
大判錦絵

29

四代歌川国政 (1848-1920)
UTAGAWA Kunimasa
三代目中村伝九郎の道化師ゴットフレー 五代目尾上菊五郎のチャリネ 五代目尾上菊五郎の象つかひアバデー 四代目岩井松之助のミスフラ女 五代目尾上菊五郎の一本足トムハーバー 初代坂東家橘の沓屋の色男
明治19年(1886)
大判錦絵三枚続

30

作者不詳
日本国産海藻一覧
明治時代
大判錦絵

31

作者不詳
大日本国産菓物一覧
明治時代
大判錦絵

32

作者不詳
日本国産莢豆類一覧図
明治時代
大判錦絵

33

作者不詳
地震太平記
安政2年(1855)
大判錦絵

34

蓮窓生
子宝兔 老まつ 替うた
明治6年(1873)
大判錦絵二枚続

35～50

中城正堯コレクション(中国版画)

中城正堯様より寄贈

中城正堯コレクション(中国版画)は、美術研究者の中城氏により収集されたコレクション。当館では、中国民間版画を中心とした99点を受贈し、今回はそのなかから16点を展示します。

中国の民間版画は、清代以降に庶民に広く親しまれた木版画です。描かれている内容は、長寿や健康、子宝や財産など、人々の願いを込めた吉祥画題。家を守り福を呼び込むとされ、家の門に貼る「門画」や、部屋を飾る「年画」、願いを込めて焼く「紙馬」など、日常生活の中で様々な形式、使い方で親しまれました。

展示作品の多くは木版画を基本としながら、顔や身体に手彩色が施されています。制作地としては、天津楊柳青や蘇州桃花塢が挙げられます。

35

財聚安楽府
清朝後期(19世紀)
1060×600 mm 木版多色摺・手彩色

36

聚財府
中華民國(20世紀)
1034×580 mm 木版多色摺·手彩色

37

觀天喜地
清朝後期(19世紀)
580×340 mm
木版多色摺·手彩色

38

福壽康寧
清朝後期(19世紀)
350×584 mm
木版多色摺·手彩色

39

麒麟送狀元
中華民國(20世紀)
997×547 mm
木版多色摺·手彩色

40

李文忠掃北
清朝中期(18世紀)
346×506 mm
木版多色摺

41

趙太祖千里送京娘
中華民國(20世紀)
582×340 mm
木版多色摺·手彩色

42

宋王觀景楊八姐遊春
中華民國(20世紀)
605×1040 mm
木版多色摺、手彩色

43

神荼 鬱壘
清朝末期(19世紀末-20世紀初頭)
各 574×340 mm
木版多色摺·手彩色

44

八仙圖
清朝末期(19世紀末-20世紀初頭)
各 912×212 mm
木版多色摺·手彩色

45

眼光娘娘
清朝後期(19世紀)
622×324 mm
木版多色摺·手彩色

46

家堂聖衆
中華民國(20世紀)
2600×460 mm
木版多色摺

47

神医華陀
中華民國(20世紀)
273×211 mm
木版多色摺

48

橋神
中華民國(20世紀)
275×206 mm
木版多色摺

49

染布缸神
中華民國(20世紀)
268×223 mm
木版多色摺

50

火徳真君
中華民国(20世紀)
270×222 mm
木版多色摺

51～55

山内敦子作品

山内岳様より寄贈

山内敦子は昭和9年(1934年)、東京生まれ。版画家の小野忠重(1909～90)が率いる「版の会」に1962年から所属し、版画制作に取り組みました。家族の都合により長く札幌を拠点として生活しましたが、2013年頃には神奈川県へと移転。2015年に80歳で死去しました。

全道美術協会や北海道版画協会に所属して版画作品を発表した一方、国画会会友の版画家として、主に北海道の風景を主題にして制作を行いました。

その作品では、多くの部分に小野忠重の影響を色濃く感じることができます。小野が考案した「陰刻法」による多色刷り木版技法をもちいて、北海道の街や漁村風景などを深い情感とともに表現しました。

山内 敦子(1934－2015)
YAMAUCHI Atsuko

51

秋韻
平成16年(2004)
515×810 mm 木版

52

海ぞいの道
制作年不詳
500×776 mm 木版

53

春のひかり
制作年不詳
220×550 mm 木版

54

厚田港
制作年不詳
356×500 mm 木版

55

雪の道庁
制作年不詳
232×331 mm 木版

56～58

松山徹作品

松山眞喜子様より寄贈

松山徹は1936年北海道に生まれ、北海道学芸大学卒業後、武蔵野美術大学に移り麻生三郎に師事しました。1970年に国画会新人賞を受賞、第10回現代日本美術展(東京都美術館)に出品。その後、石仏を描く旅を続け、国内のみならずインドにも渡りました。1977年から相模原市に移り、木版画の制作を開始。宅地造成で土地が切り出されていく周囲の光景を目にし、地層や植物の根をテーマに大地や生命の力強さを作品で表現していきました。町田第三小学校等で図工の教員を務めるかたわら、東京・神奈川を中心に海外でも展覧会を開催。2002年頃がんと患うと、病床で彫刻刀を使わずに制作できる制作手法に取り組み始めました。厚紙を貼り重ねて作った版を、引き裂き、削ぎ、草花を拾って貼るなどして紙の上に再構成しプレス機で刷る「紙層版画」を考案し、創作活動を継続しました。

松山 徹 (1936－2015)
MATSUYAMA Toru

56

鬼女まんだらシリーズより 木版

56-1 鬼女まんだら
昭和59-平成10年(1984-1998年)
790×780 mm

56-2 十羅刹女
昭和59年(1984年) 760×760 mm

56-3 ぶらんこ
昭和61年(1986年) 690×690 mm

57

生命のスパイラル II

昭和 63 年-平成 10 年(1987-1998 年)

730×700 mm

木版

58

『層』

平成 26 年(2014 年)

各 740×320 mm

紙層版画

58-1 地の層

58-2 水の層

58-3 火の層

58-4 風の層

58-5 空の層

59

デイヴィッド・ロバーツ (1796-1864)

David ROBERTS

ルイ・アーク (1806-1885)

Louis HAGHE

『聖地 シリア、イドゥメア、アラビア、エジプト、ヌビア』より

1842-1849 年刊

リトグラフ、手彩色

59-1 バールベック

492×328 mm

59-2 エドフ神殿の柱廊式玄関部分

332×508 mm

59-3 ヌビア遺跡フィラエ神殿の大柱廊式玄関

345×492 mm

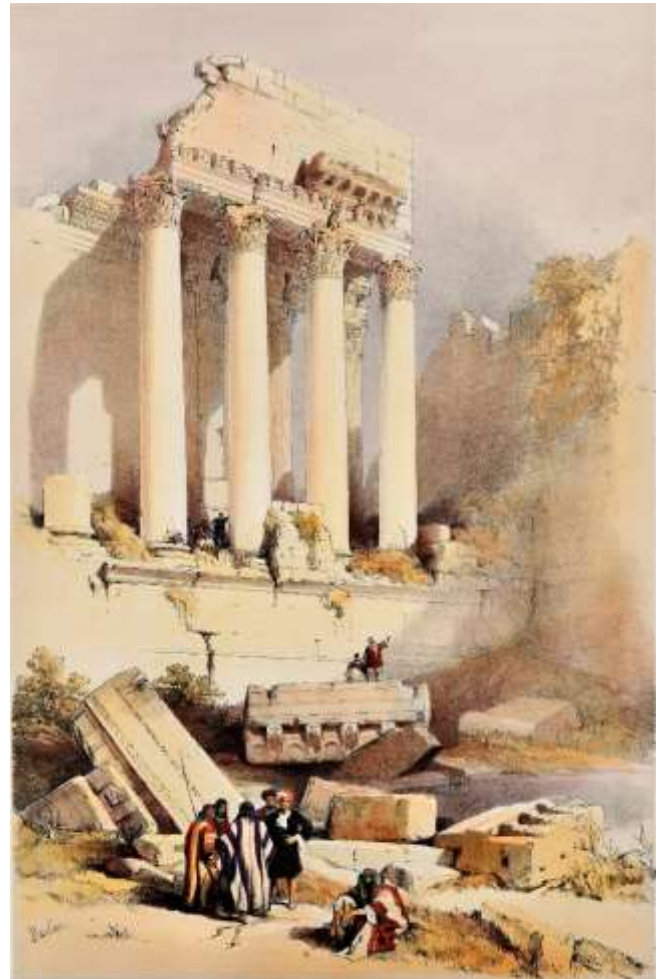
59-4 テラ・サンタ・ナザレの女子修道院

353×511 mm

吉田俊夫様より寄贈

ロバーツはスコットランド出身の画家。室内装飾や 舞台美術をへて、1820 年頃から油彩に取り組みました。オリエンタリズムの画家として知られ、1841 年にはロイヤル・アカデミー正会員となりました。アークはベルギー出身。W. デイと共に設立した Day & Haghe はヴィクトリア時代初期を代表するリトグラフ工房として知られます。1838~39 年、ロバーツは中東各地を巡り、約 300 点の素描を制作しました。これらの素描はアークによってリトグラフに写され、『聖地 シリア、イドゥメア、アラビア、エ

ジプト、ヌビア』として出版されました。ロバーツは当初から版画集の出版を目的として素描を描き、版画は原画をほぼ同寸で再現しています。このシリーズは大きな人気を博して何度も再版されて、ロバーツとアーク両者の代表作となっています。



町田市立国際版画美術館

2019 年 1 月 5 日 発行

〒194-0013 東京都町田市原町田 4-28-1

Tel. 042-726-2771

<http://hanga-museum.jp/>

この冊子は 3,000 部作成し、1 部あたりの単価は 40 円です(職員人件費を含みます)。